

「分かち合いの会 ・ ひかり」

発行責任者：植村ヨシ子

発行日 2023年6月 No.9

伊藤龍仁

講演会・報告

この悲しみを繰り返さないために
—子どもや若者の自死について考える—

「自死をなくすためには」

1) 人間に自由意志が許されている限り自死は なくなる。彼らの選択も完全に否定す ことはできない。

逆に言えば、人間の自由意志が認められな くなれば自死もできなくなる。

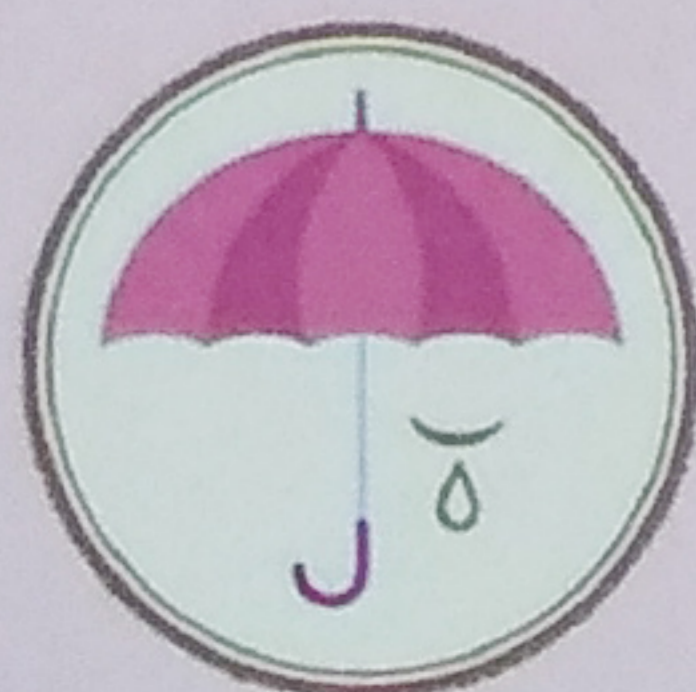
選択肢もあることを認めるしかない。

2) 競争社会、営利追求、金儲けが何よりも優 先される社会を改め、多様性を認め合い尊 重しあい誰もが生きがいを感じて暮しながら共生できる世の中になれば良い。

3) 子どもたちが希望をだいて成長することが

できる世の中になれば、子どもたちが自死 を選択しなくなるはずです。

4) 私は、マジカルの独立共生圏を提唱してフ ァミリーホームを運営し、同じ気持ちで生 きる人々とつながろうと考えてる。



父の独白

今朝もベランダの欄干に止まったきれいな鳥のさえずりで目を覚ました。

酉年だった君が父と母の様子を見に来てくれたんだろうか？

君がベランダで座って日光浴をしていたチェアに僕も腰かけて下を通る小学生たちの姿を眺めてる。

在りし日の君の姿に重ね併せて、家族の絆を育んだ幸せな時を思い出す。

そして、毎朝のルーティン。

君が買い置いてくれたコーヒー粉をサーバーにセット。そして、トーストを2枚を用意してお供えするんだが「全然減らへん。全然食べてくれへん」とお母さんは嘆き、お父さんも切なくなる。

最後に一緒に食事をしたのは、いつの事だったか？

君らが小さかった頃、君の弟と4人で毎日ご飯を食べた食卓を見るのも辛い。

去年の今日、君はもういなかったんだ。1年過ぎて、胸に抱えた重しが取れることはない。

君が、この世を去ってもう会うことができない。ただ心の内で話をするだけだ。

僕たちをお父さん、お母さんにしてくれてありがとう。でも頼りにならなかった、ごめんね。

残念ながら、僕たちは、君の子どもらの"じいじ"と"ばあば"にはなれなかったね。

君が君の大切な人を連れて帰ってくるのではないか？ そうなったらどんなに良いだろうと

お母さんもお父さんは、いつも考えているよ。夢の中でも・・・

君たちの赤ちゃんを抱っこしたかった。君が生まれたあの頃のように・・・

T&Y

分かち合いの会・ひかり in 池田 (定例会・毎月第三土曜日)

分かち合いの会・ひかり in 豊中 (定例会・毎月第二土曜日)

いずれも午後 2 時から・事前申込み不要・参加費無料

問い合わせ先：植村ヨシ子 (代表)

電話 080-3858-2954



分かち合いの会 ひかり
ホームページ